

# 平成21年度茨城県統計グラフコンクールの作品募集について

## コンクールの概要

今月の本誌の表紙をご覧いただけたでしょうか？。表紙は、昨年の「茨城県統計グラフコンクール」パソコン統計グラフの部で県知事賞に輝いた中学校1年生の作品です。県では、県民の皆様に「統計」に親しんでいただくための一つの機会として、毎年、「統計グラフコンクール」を実施しており、今年もいよいよ作品募集の時期になりました。

このコンクールは、統計グラフを描いた作品（B2判ポスター）をご応募いただくもので、本県では昭和25年度を第1回とする長い歴史があり、今年でちょうど60回目となります。毎年、多くの作品が寄せられており、本県の応募作品数は、平成6年度から15年連続で全国一となっています。

また、昨年は応募総数5,124点の中から特に優れた作品34点を全国コンクールに出品したところ、うち1点が部門第1位にあたる「特選」を受賞し、特選を含む14点が入賞しました。本県作品の特選の受賞は、9年連続の快挙です。

最近では、インターネットや各種メディアの普及によって、膨大な情報を容易に入手できるようになりましたが、その反面、その中から本当に必要な情報を選択して、データを読み解き活用していくのは、なかなか難しいのも事実です。

このような中で、統計グラフコンクールは、県民の皆様に統計について理解を深めていただくとともに、子ども達がグラフ作品づくりに取り組むことを通して、身の回りの様々な問題に目を向けながら統計に慣れ親しみ、自ら考え判断する力を伸ばしていく良い機会になるものと考えられます。

また、グラフ作品を完成させるまでの過程において、友達同士で協力し合ったり、家族の中であれこれ話し合ったりすることも、とても楽しい思い出になるのではないのでしょうか。

小・中学校の児童・生徒だけでなく、高校生、大学生や一般の方など、どなたでもご応募いただけます。作品のテーマも自由です。皆様から素晴らしい作品をご応募いただけますことを心よりお待ちしております。

なお、茨城県統計グラフコンクールの作品募集や過去の入選作品については、「いばらき統計情報ネットワーク」(<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/>)でも紹介しています。ぜひご覧ください。



## 昨年度の茨城県統計グラフコンクール応募状況

部 門	第1部 (小学1・2年)	第2部 (小学3・4年)	第3部 (小学5・6年)	第4部 (中学生)	第5部 (高校～一般)	パソコン統計 グラフの部 (小学生以上)	計
応募作品数	671	1,343	1,863	382	3	862	5,124 点
応募人数	1,250	2,747	4,553	1,102	3	2,247	11,902 人



## 応募作品作成のポイント

応募の部門や、作品の大きさなど、応募方法の詳細については次のページの「平成21年度茨城県統計グラフコンクール募集要領」に記載のとおりですが、見る人に分かりやすく魅力ある作品を作るためのポイントについて、いくつかご紹介します。

### (1) テーマ・内容

- ①各応募部門の年齢にふさわしいテーマを選ぶ。
- ②独創的な切り口を考える。(テーマに対する視点、データの組合せ等)
- ③テーマのもつ問題点が作品によく表れているかを確認する。
- ④作品の題名とグラフの内容がちぐはぐにならないように注意する。



### (2) グラフ

- ①目的にあったグラフを選ぶ。(例：大小の比較…棒グラフ，時間的経過による変化…折れ線グラフ)
- ②誤解を与えない表現をする。(誤解を与えやすい例：基線が0でないグラフ，極端な横長・縦長のグラフ)
- ③グラフに必要な文字が抜けないようにする。(単位，目盛の数字，凡例，出典等)
- ④既成の統計グラフ(新聞，教科書等に掲載しているグラフ)をそのまま使わない。
- ⑤グラフの個数を適当にする。(画面に対して多すぎたり少なすぎたりしないように)



### (3) 美 観

- ①グラフや文字を，見やすく分かりやすいように表現する。
- ②作品全体の色彩の調和やバランスを考える。
- ③装飾過剰にしない。

### (4) その他

- ①既成の絵(キャラクター，マンガ等)や応募者以外の者が作成したイラスト・写真等は使わない。
- ②「絵グラフ」では，表現の仕方によって見る人に不快感を与える恐れがないかどうか注意する。(例：人の顔を半分にした絵，足を切った絵等)

\*\*\*\*\*

作品応募の締め切りは9月1日(火)，ちょうど子ども達の夏休みが終わって2学期の始まる日です。親子で過ごせる時間がたっぷりある夏休みに，子ども達の作品づくりにアドバイスを送ったり，お父さん，お母さんが自ら一つの作品を仕上げたりと，ぜひグラフ作品づくりに挑戦してみてください。

(※本稿の掲載作品は，昨年の県コンクール第1部で入選した作品です)

# 平成21年度茨城県統計グラフコンクール募集要領

## 1 目的

統計知識の普及向上と統計教育の振興、統計の表現技術の研さん  
に資するため、県内の児童・生徒・学生及び一般県民から統計グラ  
フを募集します。

## 2 主催・後援

主催：茨城県、茨城県教育委員会、茨城県統計協会  
後援：茨城新聞社

## 3 部門及び応募資格

- 第1部………小学校1年生及び2年生の児童  
第2部………小学校3年生及び4年生の児童  
第3部………小学校5年生及び6年生の児童  
第4部………中学校（注1）の生徒  
第5部………高等学校（注2）以上の生徒・学生及び一般  
パソコン統計グラフの部………小学校の児童以上  
（注1）中等教育学校の前期課程を含む。以下同様。  
（注2）中等教育学校の前期課程を含む。以下同様。

## 4 課題

各部とも自由です。ただし、小学校4年生以下の児童については、  
児童が自ら観察又は調査した結果をグラフにしたものとします。

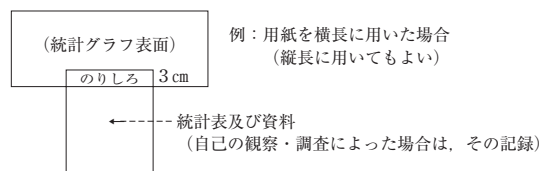
## 5 応募方法

- (1) 用紙の大きさ  
各部とも仕上げ寸法をB2判（72.8cm×51.5cm）とします。（用  
紙は貼り合わせでもB2判であれば可。）
- (2) 紙質・色彩  
各部とも紙質・色彩（単色でも可）は自由ですが、裏面の板張  
り（パネル仕上げ）、表面のセロハンカバー等は認めません。
- (3) 応募点数  
制限しませんが、2枚以上にわたるシリーズものは認めません。
- (4) 合作の人数  
1作品について5人以内とします。なお、学年が異なる児童生  
徒の合作も可能ですが、その場合は、上位の学年に対応する部門  
に応募してください。
- (5) 送付先  
① 第1部～第4部及びパソコン統計グラフの部（小・中学生）  
中央地区（水戸教育事務所管内） ひたちなか市立那珂湊第一小学校  
県北地区（県北教育事務所管内） 常陸太田市立小里小学校  
県東地区（鹿行教育事務所管内） 神栖市立波崎第四中学校  
県南地区（県南教育事務所管内） 守谷市立愛宕中学校  
県西地区（県西教育事務所管内） 常総市立五箇小学校  
② 第5部及びパソコン統計グラフの部（小・中学生以外）  
県企画部統計課（水戸市笠原町978-6 TEL 029-301-2637）
- (6) 締切日  
平成21年9月1日（火）  
※ なお、第1～4部及びパソコン統計グラフの部（小・中学生）  
の作品については、学校を通じて出品することになりますの  
で、各地区の締切日は(5)の各学校に問合せてください。

## 6 応募上の注意

- (1) 応募作品は、自分で創作したものに限ります。
- (2) 第三者（応募者以外の者）が作成したイラストや写真を使用し  
ないでください。（利用許諾の有無にかかわらず、第三者が作成  
した著作物の全部又は一部の使用を禁止します。著作権フリーの  
イラスト、写真等も使用できませんので注意してください。）
- (3) 応募作品の裏面に、住所（学校を通じて応募する児童、生徒、  
学生の場合は省略可）、氏名、所属の学校名・学年（児童・生徒・  
学生の場合は）を明記すること。ただし、小・中学校の児童生徒に  
ついては、所定の様式（※統計課HP「いばらき統計情報ネット  
ワーク」からダウンロード可能）により作品裏面右下に貼付する  
こと。  
なお、住所、氏名、学校名は正しい字体で書き（略字は使わな  
い）、必ず「ふりがな」をつけること。
- (4) 自己の観察又は調査の結果をもとにグラフを作成した場合は、  
その記録を必ず別紙として貼付すること。
- (5) 自己の観察又は調査によらずに、他からの資料を利用した場合  
は、その取材資料の出所を作品表面の適宜の位置に明記すると  
ともに、統計表（取材資料）を別紙として貼付すること。
- (6) 観察・調査の記録及び統計表（取材資料）はB5判（25.7cm×  
18.2cm）又はA4判（29.7cm×21.0cm）の用紙に書き、作品の裏  
面下部に3cmの「のりしろ」で右図のように貼付すること。
- (7) パソコン統計グラフの部の作品については、使用した機種・ソ

フト・プリンター名を作品の裏面に明記すること。



## 7 作品の審査

### (1) 審査方法

- ① 地区審査………第1部～第4部及びパソコン統計グラフの部  
（小・中学生）の作品について地区審査会（各教育事務所の地  
域区分）で審査します。
- ② 県審査………地区審査会で入選した作品と第5部及びパソコン統  
計グラフの部（小・中学生以外）について県審査会で審査しま  
す。

### (2) 審査員

学識経験者、教職員及び行政機関等の職員

## 8 入選区分及び賞

### (1) 入選

- ① 知事賞（各部1点）  
② 県議会議長賞（各部1点）  
③ 県教育長賞（各部2点〔5部については高等学校の生  
徒、パソコン統計グラフの部については小学校、中学校及び高  
等学校の児童・生徒〕）  
④ 茨城新聞社長賞（各部1点）  
⑤ 県統計協会総裁賞（各部5点）  
⑥ 県統計協会会長賞（各部10点）

### (2) その他

- ① 県企画部長賞（地区審査会で選出された県審査会出品作  
品で、8(1)①～⑥以外の作品のうち上位の作品）  
② 情報教育研究部長賞（地区審査会で選出された県審査会出品  
作品で、8(1)①～⑥及び8(2)①以外の作品）  
③ 奨励賞（上記以外の応募作品）

## 9 入選作品の発表

入選作品（上記8(1)）は平成21年9月下旬に公表し、第1部～第  
4部及びパソコン統計グラフの部（小・中学生）については各地区  
の情報教育研究部長及び所属学校長に、第5部（高校生）及びパソ  
コン統計グラフの部（高校生）については所属学校長に、大学生及  
び一般については本人あてに、それぞれ通知するとともに、県企画  
部統計課のホームページ及び入選作品集等に掲載します。なお、入  
選作品のなかった学校には文書による通知はいたしませんので、県  
企画部統計課ホームページで御確認ください。

また、発表に当たっては、作品ごとにテーマ（作品名）、制作者  
の氏名、制作者の居住市町村名（一般の場合）、所属する学校名と  
学年（児童、生徒、学生の場合）を掲載します。

## 10 全国コンクールへの出品

入選作品中、特に優秀と認められる作品を第1部～第5部及びパ  
ソコン統計グラフの部について、各部8点以内を全国コンクールへ  
出品します。

## 11 表彰

入選作品（上記8）の表彰については、別途通知します。

## 12 作品展示

県が主催する入選作品展で今年度入選作品（上記8(1)）を展示す  
るとともに、巡回展示会場（県内各小・中学校）で前年度県審査会  
審査作品を展示します。

## 13 応募作品の帰属

応募作品のうち、県審査会審査作品（上記8(1)及び8(2)①～②）  
の著作権は、茨城県に帰属します。なお、全国コンクールで特選又  
は入選を受賞した作品の著作権は助統計情報開発センターに帰  
属します。また、入選作品は、統計の普及啓発及び県事業の推進の  
ため、その全部又は一部の場合によっては加  
工の上、印刷物やホームページ等で使用する  
ことがあります。

## 14 応募等の問合せ先

茨城県企画部統計課普及情報グループ  
（TEL 029-301-2637 ダイヤルイン）





## 労働力調査からみた 最近の雇用状況について

茨城県企画部統計課人口労働グループ 嶋崎直子

### 1 はじめに

○労働力調査は、昭和22年7月から実施している、統計法に基づく国の基幹統計調査です。

#### 【調査の概要】

目的：国民の就労状況等を明らかにする

国の経済政策や雇用対策のための基礎資料

対象：我が国に居住している全人口

標本調査で、全国の全世帯の縮図となるように選定している。

毎月約4万世帯を抽出

茨城県では、毎月約70地域、約1,000世帯を対象としている。

期日：各月の末日（12月については26日現在）

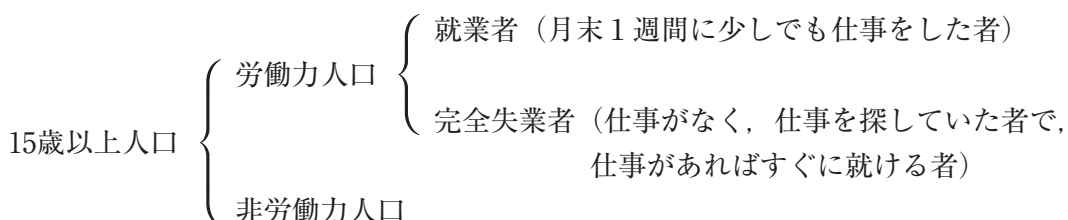
期間：月末の一週間（12月については20日から26日までの一週間）

調査は1つの世帯につき、最初の年の2か月間、さらに翌年の同じ月に2か月間、のべ4か月

○調査結果の速報は、調査月の翌月に公表されています。

### 2 就業者、完全失業者について

就業者、完全失業者の定義は、他の主要先進国と同様、客観的に就業・失業の実態を把握するため、ILO（国際労働機関）の定めた国際基準に準拠したものです。



### 3 最近の雇用状況 ～完全失業者の増加～

【平成21年 5月29日公表総務省統計局から（4月分）】

#### (1) 完全失業者

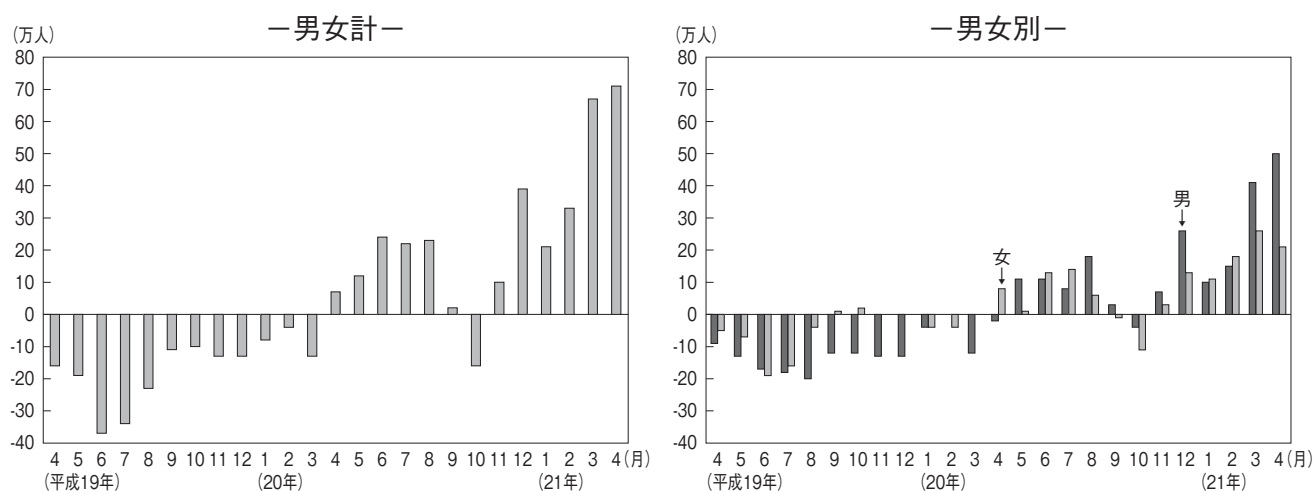
完全失業者は346万人。

図1は完全失業者の対前年同月増減の推移を表しています。

前年同月に比べると・・・71万人（25.8％）の増加。6か月連続増加

男性は50万人、女性は21万人増加しています。

図1 完全失業者の対前年同月増減の推移



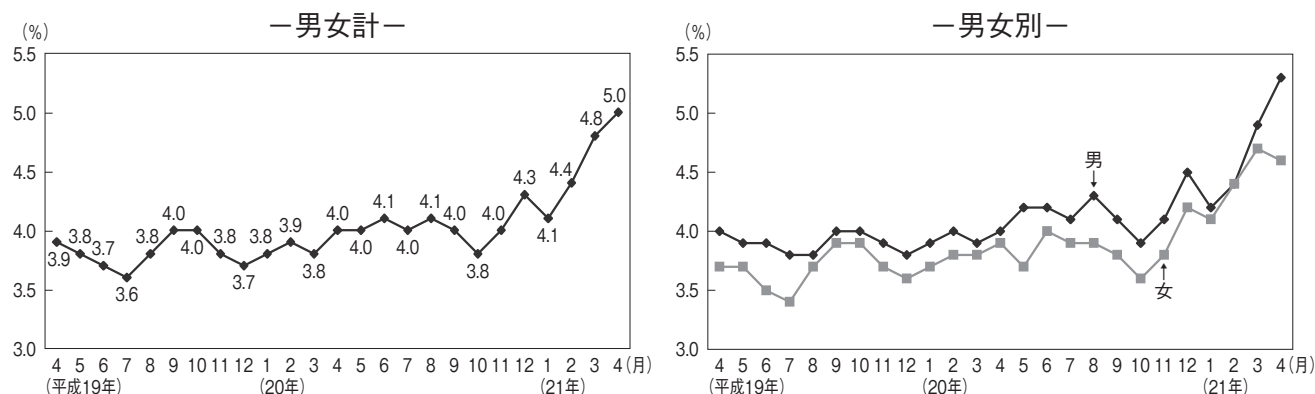
#### (2) 完全失業率【季節調整値】

完全失業率は5.0%

図2は完全失業率の推移を表していますが、昨年の10月以降上昇しています。

（2003年11月以来、5年5か月ぶりに5%台に突入）

図2 完全失業率（季節調整値）の推移



※ 季節調整：季節変動の影響を取り除いたもの

例えば、毎年2月から4月にかけては、定年や雇用期間満了による離職者などが一時に完全失業者になるため、原数値によると、完全失業率が高くなってしまいます。

### (3) 年齢階級別

○完全失業者数を前年同月に比べると（表1）

男性はすべての年齢階級で増加。

女性も「65歳以上」を除くすべての階級で、完全失業者数が増加しています。

○完全失業率

若年層「15歳～24歳」「25歳～34歳」ほど高くなっています。

表1 年齢階級別完全失業者数及び完全失業率（原数値）

（万人，％，ポイント）

平成21年 4 月	男 女 計				男				女			
	完全失業者		完全失業率		完全失業者		完全失業率		完全失業者		完全失業率	
	対前年 同月増減		対前年 同月増減		対前年 同月増減		対前年 同月増減		対前年 同月増減		対前年 同月増減	
総 数	346	71	5.2	1.1	208	50	5.4	1.4	138	21	4.9	0.7
15～24歳	58	11	9.6	2.2	28	4	9.3	1.7	30	7	9.8	2.5
25～34歳	83	10	6.1	0.9	49	9	6.2	1.3	35	2	6.1	0.4
35～44歳	71	21	4.7	1.3	40	15	4.5	1.6	31	6	5.1	0.9
45～54歳	53	13	4.0	1.0	31	10	4.2	1.4	22	3	3.9	0.6
55～64歳	61	12	4.8	1.0	45	9	5.8	1.2	16	3	3.2	0.7
65歳以上	18	3	3.0	0.4	15	3	4.0	0.7	3	0	1.3	△ 0.1
(再掲)55～59歳	32	10	4.4	1.6	23	8	5.3	2.0	10	3	3.4	1.2
(再掲)60～64歳	29	3	5.3	0.3	23	3	6.7	0.6	6	0	2.9	△ 0.2

### (4) 求職理由

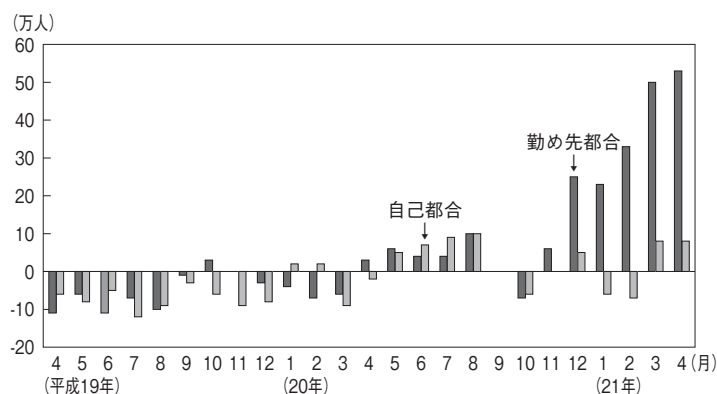
求職理由別完全失業者は、勤め先都合が114万人、自己都合が103万人ですが、前年同月と比べると勤め先都合の増加が53万人と、自己都合を大きく上回っています。（表2）

また、12月以降から、勤め先都合での失業が圧倒的に多くなっています。（図3）

表2 求職理由別完全失業者

平成21年 4 月	男女計	
	実数	対前年 同月増減
完全失業者	346	71
定年又は雇用契約の満了	40	5
勤め先都合	114	53
自己都合	103	8
学卒未就職	20	7
新たに収入が必要	41	2
その他	24	△ 5

図3 主な求職理由別完全失業者の前年同月増減の推移



労働力調査の結果は、総務省統計局のホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。  
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/index.htm>